

グループ経営を支えるシェアードソリューション

—GEMPLANETファミリー—

Shared Solution by GEMPLANET Family Supporting Group Management

奥田 崇博 **山口 勇** **西嶋 寛之**
Okuda Takahiro Yamaguchi Isamu Nishijima Hiroyuki
伊藤 誠 **松岡 健二**
Ito Makoto Matsuoka Kenji

事業環境が激しく変化する中、企業はグループ経営の可視化と業務効率化をめざした共通業務のシェアード化に着目している。

日立グループは、日立製作所が開発したERPパッケージであるGEMPLANET Ver.2と、グループ各社で開発したGEMPLANETファミリー製品との連携により、グループ経営を支えるシェアードソリューションを提供している。

GEMPLANET Ver.2は、複数会社管理や内部統制などシェアードソリューションを支える機能と、広範なサポート業務を補完するファミリー製品により、幅広いニーズに応えてユーザー視点によるソリューションを創出し、顧客満足度ナンバーワンをめざしていく。

1. はじめに

近年、変化の激しい事業環境において、ビジネスの早期立ち上げと変化への即応、コアコンピタンスへの集中、およびコスト削減を実現する手段として、IT資産を所有するだけでなくネットワークを経由してサービスを利用するクラウドコンピューティングが注目されている。クラウドコンピューティングとは、2006年8月、シリコンバレーで開催されたカンファレンスでのGoogle社CEOのEric Schmidtの発言がきっかけとなって広まった言葉であり、ネットワーク越しに提供されるサービスを利用する形態のシステムのことである。

その中でも、グループ企業の人事・給与・会計システムを集約するシェアード化を、プライベートクラウドとして構築する企業ニーズが増加している。それによって企業が期待する効果には、次の3点が挙げられる。

第一に業務的観点として、グループ共通業務を集約してバックオフィス業務を効率化することによるコスト低減がある。集約にあたっては、制度の統一などの業務プロセスの見直しまでを実施することにより、大きな効果が期待できる。また、削減された工数をグループ戦略の立案に充て

られるという効果も期待できる。

第二にシステムの観点として、導入・運用コストの低減がある。また、昨今厳しく求められるシステム的管理レベルの向上について、グループでの統一的な実現も可能となる。

第三にビジネス的観点として、グループ内で蓄積したシェアードノウハウのグループ外企業へのサービス展開がある。サービス展開によるビジネス化を将来像として掲げる企業も増加している。

ここでは、グループ経営を支えるシェアードソリューションの概要と導入事例について述べる。

2. シェアード化の課題と求められる要件

シェアードサービスとは、グループ経営強化のために、複数の企業・組織で実施している共通業務を集約させ、シェアードサービスセンターがサービスを提供することにより、業務の効率化を図るとともに、知識や能力を蓄積させる企業変革のことを言う。

シェアードサービスを進めるにあたり、避けて通れない課題は、グループ企業が独自の業務プロセス・システムを持っているため、共通化が困難なことである。一方、シェアード化による効果を最大化するには、共通化を推進しなければならないことから、システムとしては、グループマスタの共通管理と各社マスタの独自性確保という相反するニーズを解決する機能が必要となる。

また、グループ会社間の業務の効率化には、データ連携をスムーズに実施する必要があり、そのためには統合データベースが必要不可欠となる。このとき、間接業務の効率化を図りながら、グループ会社の内部統制基盤の統一および管理レベル向上を実現するための機能が重要な要件となる。

さらに、IFRS（International Financial Reporting Standards：国際財務報告基準）の導入を契機に、連結ベースのセグメント情報を早期に把握することが求められている中、管理会計をいかに実現するかが課題となるため、グループ会社をまたいだ経営情報をいち早く掌握することが重要である。

これらシェアード化の課題を解決するGEMPLANETファミリーによるシェアードソリューションについて以下に述べる。

3. GEMPLANETファミリーによるシェアードソリューション

GEMPLANET Ver.2とは中堅の企業グループ圏をターゲットに日立製作所が開発したERP（Enterprise Resource Planning）パッケージであり、日立グループ各社が開発したGEMPLANETファミリー製品との連携により、製造・流通分野の企業におけるさまざまなニーズをカバーできる製品となっている。

GEMPLANET Ver.2は、システム基盤および人事・給与・会計といった業種共通のコア機能を実装し、シームレスな連携を持ったファミリー製品により、グループ経営を支える多様なシェアードソリューションの提供を可能としている（図1参照）。

(1) 情報の一元管理

GEMPLANET Ver.2は、サービスを提供する全会社分のデータを一つの統合データベースで管理する。統合データベースでは、ユーザーや社員といったグループ共通の情

報は統一管理し、組織、科目、取引先といった各社個別のマスタは各社で管理することが可能になる。マスタ情報はグループの共通情報を持つ会社から各社に情報の配布が可能であり、配布された会社では、各社固有の差分情報を追加修正することで、グループマスタの共通管理と各社マスタの独自性確保という相反するニーズを実現できる。

また、すべてのトランザクションも同一データベースに構築しているため、グループ会社間の取引や社員の異動などが容易である。

これによりグループ会社間のスムーズなデータ連携が可能となり、効率的なグループ内リソース管理が実現する。

一般的な統合データベースでは、複数会社間のデータ連携やモニタリングを容易に実現できる反面、一般ユーザーでも他社の情報が参照できてしまうという問題がある。これは、データベースのミドルウェアでは、異なる会社の情報が登録されていても、ミドルウェアから見た情報はすべて同一属性の情報の集合体であり、どの会社の情報であるか判別できないためである。したがって、一般ユーザーへの情報公開範囲は、情報の意味を知る業務アプリケーションでコントロールする必要がある。

GEMPLANET Ver.2では、他社の利用権限を持たない一般ユーザーが利用した場合は、特定会社のデータだけが利用範囲となるように、業務アプリケーション側で情報のフィルタリングを行う。したがって、一般ユーザーには限定された情報だけが公開されるようになり、情報の一元化

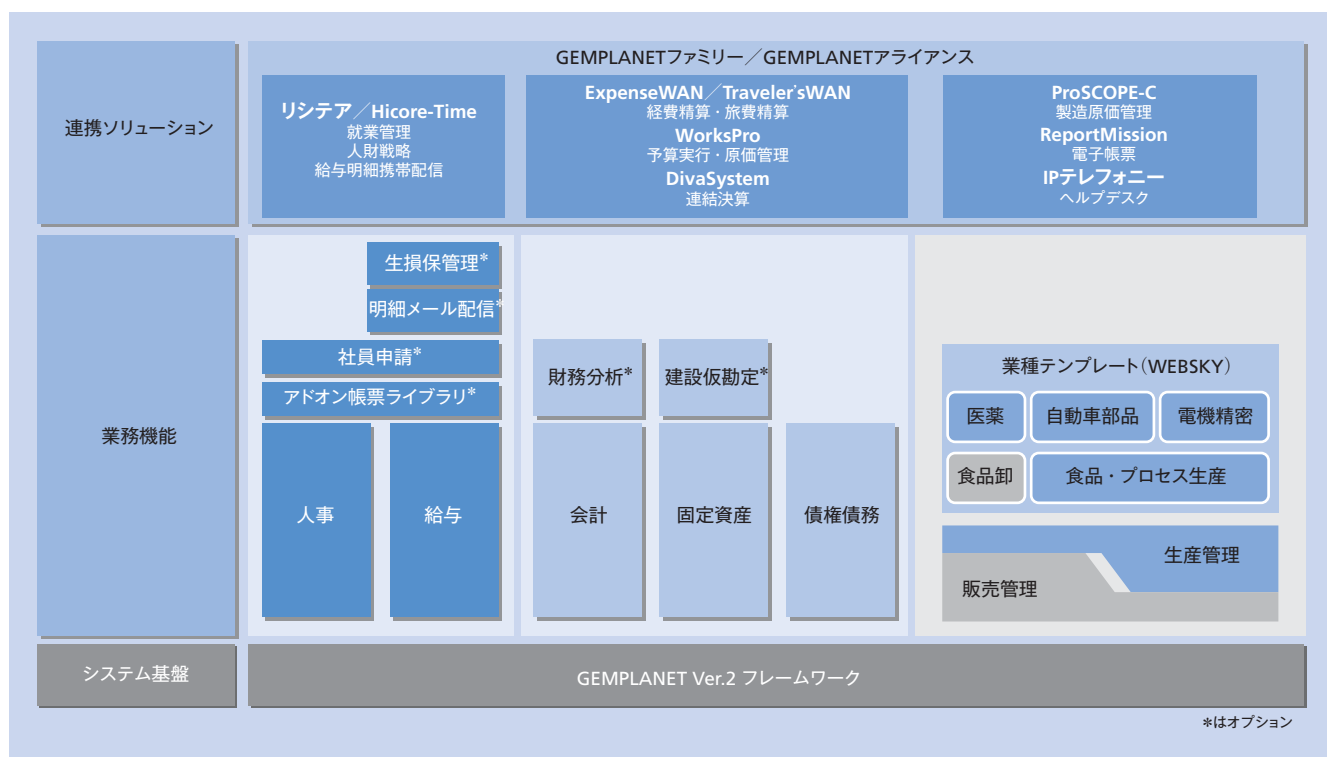


図1 | GEMPLANETファミリー

GEMPLANET Ver.2フレームワークをシステム基盤にして、グループ経営を支える多様なシェアードソリューションを提供する。

と統合管理が実現する。

(2) 間接業務の統一による効率化

GEMPLANET Ver.2は、会社をまたいだシステム管理を実現している。親会社やシステム管理会社などのシステム管理主幹であるユーザーは、ログイン会社の切り替えにより、子会社の業務などを容易に代行することが可能である。これにより各社の間接業務をシェアードサービスセンターに集約し、効率的に運用することができる。

しかし近年、上述のような管理者権限の利用については内部統制による厳密な管理が求められている。GEMPLANET Ver.2では、システム利用権限の厳密なアクセスコントロール、監査証跡として利用するログ管理や、モニタリング機能を備えることにより、グループ会社の内部統制基盤の統一を図りながら間接業務の効率化を可能にしている。

さらに、各社の運用時間帯に合わせてサービス提供時間を管理する機能や、システム管理部門から担当者へ情報を伝達する機能を用いることで、各社のシステム管理業務の効率化も可能になる。

内部統制関連の機能や運用管理、および情報のフィルタリング機能は、システム全体で統一されたポリシーで管理されるべきである。そのため、すべてのアプリケーションで共通した機能実装が必要である。

GEMPLANET Ver.2は、システム基盤であるフレームワークをベースに業務機能を構築している。したがって、アプリケーションが処理を実行するまでに、必ずフレームワークを経由する。内部統制関連の機能や運用管理、情報のフィルタリング機能をフレームワークで実装することにより、すべてのアプリケーションで統一した管理を可能にしている（図2参照）。

(3) 経営情報把握の早期化

GEMPLANET Ver.2では仕訳明細上のキー項目に、部門、プロジェクト、管理コード（10項目）といった管理会

計上の集計キーを追加することができる。これらのキーを軸にして、セグメント別管理などの管理会計上の予算管理や配賦、管理帳票の出力が可能となっている。

これにより、グループ会社の経営管理基準の統一と、セグメント別管理の効率が向上する。

また、相手会社の内部取引仕訳の自動作成や、複数会社をまたいだセグメント管理および部門・科目別残高／仕訳明細へのドリルダウン（オプション機能）が可能であり、グループ会社間の振替業務や、グループ全体の経営状況のモニタリングを効率化できる。

これらは統合データベースの構築により、複数会社間のデータを一元管理するとともに、グループ会社の業務プロセス・業務システムを統一し、会社をまたいだ情報共有を行うことで実現可能となるため、シェアード化における最終目標と位置づけることができる。

4. シェアードソリューションの導入事例と効果

近年、GEMPLANETファミリーを中心にしたシェアードソリューションの導入が増加してきている。

その中でも人事・給与業務および会計業務についての特徴的な事例について以下に述べる。

(1) 人事・給与業務導入事例

総合物流企業であるA社では、グループ経営の効率化を目的とした国内事業再編に伴い、現在子会社間で格差のある人事諸制度およびシステムの統一化を行うために、GEMPLANET Ver.2と就業管理システム「リシテア」の導入を決定した。

第1フェーズとして本社（従業員数約1,800人）を対象に2010年4月に稼動し、現在第2フェーズとしてグループ会社4社（従業員数約3,400人）を含めたシェアードサービス化に向けて構築作業中である。

このサービスに向けたインフラはA社データセンターに集約し、各社担当者はイントラネット経由でサービスを利用するといったプライベートクラウドを実現している（図3参照）。

第1フェーズの導入効果として、紙で管理していたものが電子化されたことによるTCO（Total Cost of Ownership）削減や、過去データを含めた情報の検索／参照の容易化が挙げられる。これにより、労働基準法第36条の規定に基づく「時間外労働・休日労働に関する協定」、いわゆる36協定管理などの管理業務面での精度および業務効率を向上することができた。

第2フェーズの導入効果としては、グループ全体でのTCO削減はもとより、会社間の人財情報の串（くし）刺し検索機能や、会社間異動の履歴の検索機能を実現すること

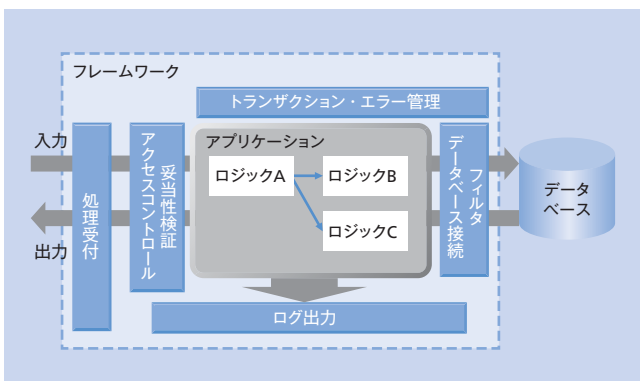


図2 | フレームワークとアプリケーション

フレームワークで実装される処理により、すべてのアプリケーションで統一した管理が可能となる。

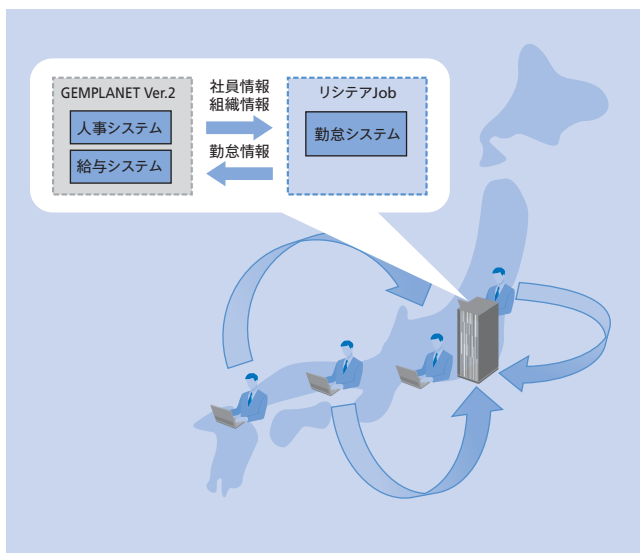


図3 | A社グループのシステム連携イメージ

A社データセンターにインフラを集約することでプライベートクラウドを実現する。

により、グループ全体での人事業務の効率化やグループ人材戦略の高度化といった効果が期待されている。

(2) 会計業務導入事例

食品業を中心とした幅広い事業を展開しているB社グループでは、グループ会社13社のプラットフォーム統一を目的とし、GEMPLANET Ver.2およびファミリー製品ExpenseWAN, ProSCOPE-Cを導入した。

このサービスに向けたインフラは日立グループのデータセンターに集約し、B社グループ担当者はイントラネット経由でサービスを利用するといったプライベートクラウドを実現している（図4参照）。

このシステムの導入効果としては、ファミリー製品ExpenseWANで、各社からの経費支払い依頼・精算依頼を電子化してGEMPLANET Ver.2にシームレスに直結することにより、業務の効率化・標準化・経費把握スピードの向上に貢献していることが挙げられる。

また、GEMPLANET Ver.2では、ExpenseWANからの経費データを基に管理コードをキーにした仕訳データを作成し、ProSCOPE-Cをベースとした原価管理システムへの原価データ連携までを実現している。

これにより、各グループ会社の原価データ収集プロセスが共通化され、原価計算業務の効率化、決算業務の早期化、および決算報告の質的向上が実現した。

5. 今後の展望

今後は、以下の3点を視点にシェアードソリューションの拡大を進めていく。

(1) クラウド

パブリッククラウドと言われる、企業グループ以外の第

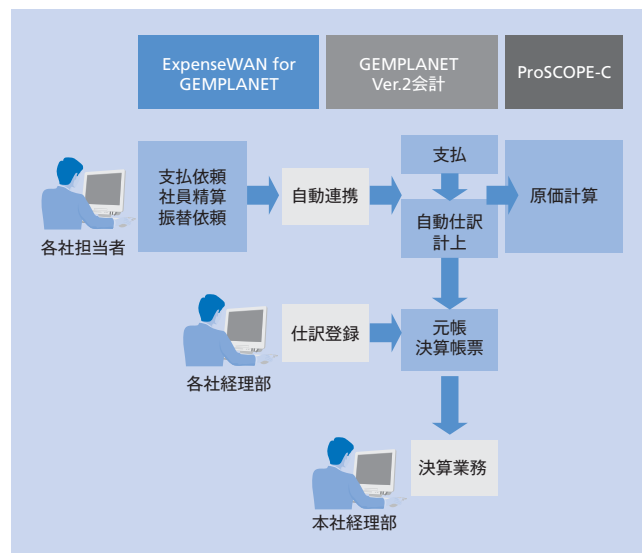


図4 | B社グループのシステム連携イメージ

GEMPLANETファミリーの連携により、グループ経営情報把握の早期化を実現する。

三者が提供するクラウドサービスにおいては、データの流出や消失のリスクが懸念されるため、人事・給与・会計といったコア業務においての採用をためらう企業が多い。

こういった状況を踏まえ、現在GEMPLANET Ver.2では、企業グループ内の部門がクラウドサービスを提供するプライベートクラウド形態でのシェアードサービスを用意している。

今後は、アプリケーション自体を各社で持たず、必要となる機能だけをサービス提供するSaaS（Software as a Service）などの形態に進んでいくものと考えられる。このような市場の動向を見極めながら、各アプリケーションのサービス提供型のソリューション開発を行い、パブリッククラウドへのニーズに対応していく。

(2) IFRS（国際財務報告基準）

GEMPLANET Ver.2では2012年に決定するIFRSの強制適用（アドプション）時期を見据え、アドプション対応の機能改良版をリリースし、グループ経営の基盤となる複数会計基準（日本基準・IFRS基準）での経営情報把握を可能にする予定である。

また、IFRSに合わせた日本の会計基準改正（コンバージェンス）に対応した過年度遡（そ）及修正や財務諸表表示対応（包括利益計算書）などの機能強化についても、随時実施していく。

(3) ファミリー連携

GEMPLANET Ver.2は、ファミリー連携の基盤として従来からのデータ連携に加え、ファミリー製品を同一フレームワークで統合する基盤統合、uCosminexus Service Platformを用いたWebサービスによるプロセス統合の基盤を持つ。今後、これらの基盤を用いた連携を強化するこ

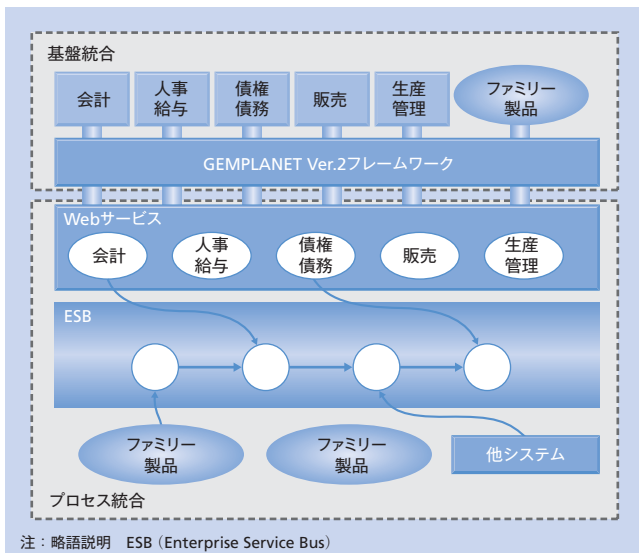


図5 | ファミリー連携構想

フレームワーク上でコア機能とファミリー製品がESBによって統合され、プロセスを一体化する。

とにより、ファミリー製品との一体感を増し、日立グループ全体でのシナジー効果をめざしていく（図5参照）。

6. おわりに

ここでは、グループ経営を支えるシェアードソリューションの概要と導入事例について述べた。

今後も、外部経営環境の変化や新技術の登場に伴い、シェアードソリューションに対する顧客ニーズや技術動向は変わっていくものと思われる。

GEMPLANET Ver.2は今後も市場や新技術の動向を把握し、顧客視点によるソリューションを創出することで顧客満足度ナンバーワンをめざしていく。

参考文献など

- 1) 統合業務パッケージ GEMPLANET Ver.2,
<http://www.hitachi.co.jp/products/it/industry/solution/gemplanet/>
- 2) 勤怠管理システム リシテア,
<http://lysitheia.hitachi-system.co.jp/>
- 3) 経費精算システム ExpenseWAN Pro,
http://www.hitachi-hitec-solutions.com/products/product1_01_02.html
- 4) 製造原価計算システム ProSCOPE-C,
http://www.hitachi-sc.co.jp/products/proscope_c.html

執筆者紹介



奥田 崇博

1998年日立製作所入社、情報・通信システム社 産業・流通システム事業部 エンタープライズパッケージソリューション本部 GEMPLANETソリューション部 所属
現在、GEMPLANET Ver.2の製品開発に従事



山口 勇

1995年日立製作所入社、情報・通信システム社 産業・流通システム事業部 エンタープライズパッケージソリューション本部 GEMPLANETソリューション部 所属
現在、GEMPLANET Ver.2の導入・拡販に従事



西嶋 寛之

2003年日立製作所入社、情報・通信システム社 産業・流通システム事業部 エンタープライズパッケージソリューション本部 GEMPLANETソリューション部 所属
現在、GEMPLANET Ver.2の製品開発・導入に従事



伊藤 誠

1993年日立製作所入社、情報・通信システム社 産業・流通システム事業部 エンタープライズパッケージソリューション本部 GEMPLANETソリューション部 所属
現在、GEMPLANET Ver.2の導入・拡販に従事



松岡 健二

1991年日立ソフトウェア株式会社（現 株式会社日立ハイテクソリューションズ）入社、パッケージビジネス本部 パッケージソリューション部 所属
現在、旅費・経費管理パッケージの企画・開発に従事